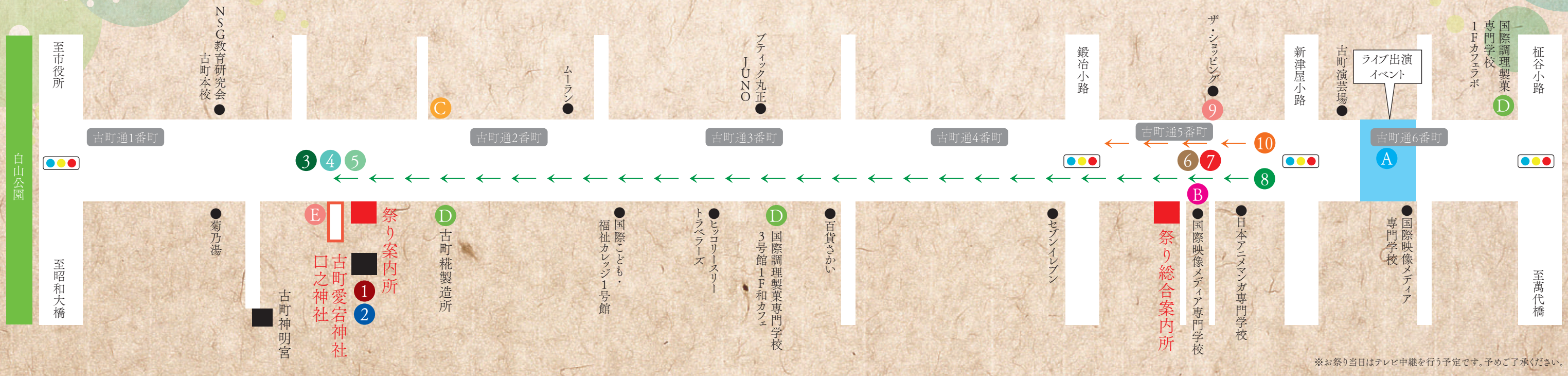
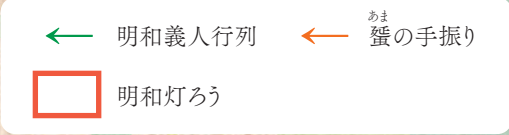


明和義人祭

2022年 8月27日(土) 11:00～

会場／古町通1番町～古町通6番町、古町愛宕神社・口之神社

※交通規制 9:00～20:30(古町通1番町～2番町、古町通5番町、古町通6番町)、17:30～18:30(古町通3番町～4番町／行列通過時のみ)



※お祭り当日はテレビ中継を行う予定です。予めご了承ください。

明和義人とは

18世紀半ば、江戸では第十代将軍徳川家治の側用人・田沼意次が幕府の政治を仕切っていました。同じ頃、新潟湊では困窮する町民の暮らしを救おうと立ち上がり、藩に代わり自らの手で町政を実現した人々がいました。自主自立の精神とエネルギーにあふれる住民自治の幕開けでした。

後世の人々は、この出来事を誇るべき歴史として口伝にて伝え、町のために働いた涌井藤四郎、岩船屋佐次兵衛を中心とする人々を「明和義人」として崇め、明治時代に入ってから古町愛宕神社境内社、口之神社に祀りました。

ことの起こりと経過

明和4(1767)年、財政悪化に苦しむ長岡藩は、湊を運営する新潟町民に多額の御用金を納めるように命じました。翌年、涌井藤四郎は難しくなった支払い期限を延ばしてもらおうと、同じ意見の人々と集い、会合しました。

9月20日、長岡藩の命を受けた町会所は、悪事を計画しているとして、藤四郎たちを牢に閉じ込めました。これに町の人たちは反発。26日夜、有力町民や米を買い占めていた商人の家を、次々にうちこわしました。奉行所はこの鎮圧に失敗し、藩は藤四郎たちを自由にしました。翌27日もうちこわしは続き、さらに奉行所を目指しましたが、藤四郎は人々を押し留めました。

新潟町の人々は、藤四郎を代表とする町民自治の体制を整え、秩序を回復させました。長岡藩は、町会所による町政運営の再開を試みましたがうまくいかず、藤四郎たちによる町民自治は、その後2ヶ月に渡り続きました。

11月末、長岡藩は藤四郎たちを捕え、藤四郎とうちこわしに関わった岩船屋佐次兵衛を打ち首にしました。新潟町の人々は、藤四郎たちへの処罰は理不尽であると考え、ひそかに祀り、この事件を誇るべき歴史として後世に伝えました。後に藤四郎、佐次兵衛を中心とする町の人々は義人と呼ばれるようになり、昭和3(1928)年には白山公園に明和義人之顕彰碑が建てられました。

明るく体験

A 商店街イベント

ライブ出演イベント(古町通6番町)

13:00～17:00

今年は3回目の開催。国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校生徒による多種多様な音楽をお楽しみいただけます。



B 撮影スタジオ(古町通5番町)

11:00～20:00

「明和騒動」の舞台となった、現在の新潟古町。江戸時代(明和)の新潟湊まちを体感いただく撮影スポットです。



C 縁日・子ども遊び(古町通2番町)

11:00～17:00

お子様向けイベント。「輪投げ」「金魚すくい」「射的」(予定)が一回100円で楽しめます。参加賞もあります。また縁日コーナーでは、手ぬぐい等の明和義人祭グッズを各種販売しております。



D 飲食テイクアウト販売(古町通3・6番町)

11:00～13:00(売り切れ次第終了)

飲食コーナーは古町3番町、6番町の国際調理製菓専門学校の校舎1階にて美味しいテイクアウトメニューの販売を行います。古町通3番町の古町製菓製造所においては夏にぴったりのドリンクを販売いたします。どうぞご利用ください。



E 明和灯ろう点灯(愛宕神社参道)

18:30～19:45(雨天時:中止)

明和義人の偉業を称え、灯ろうの綺麗な明かりで神社の参道・境内を包み込みます。



和やかに観覧

1 採火式(口之神社)

11:00～

明和義人の主人公である、涌井藤四郎、岩船屋佐次兵衛、芸妓のお雪さんの御三方の御霊をお招きし、ご神燈を点火します。



2 御霊おこし(口之神社)

14:00～14:15

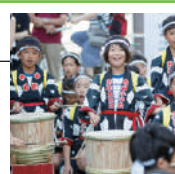
涌井藤四郎、岩船屋佐次兵衛を中心とする人々は、「明和義人」として崇められ、古町愛宕神社境内社の口之神社にお祀りしてあります。その方たちの魂をお祭りにお迎えする儀式となっています。最後まで無事に参拝が行われるよう見守っていただきます。



3 万代太鼓(古町通2番町:愛宕神社参道前)

14:30～14:50(雨天時:古町通5番町)

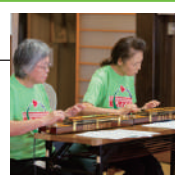
白山小学校の子供たちが披露してくれます。



4 大正琴(古町2番町:愛宕神社参道前)

15:00～15:20(雨天時:古町通5番町)

「琴源と大正琴新潟友の会」有志による大正琴の演奏を是非ご堪能ください。



5 古町芸妓舞(古町2番町:愛宕神社参道前)

16:00～16:20(雨天時:古町通5番町)

200年の伝統を誇る新潟古町芸妓は、新潟を代表する文化のひとつです。普段見られない芸妓さんの華麗な舞をご覧ください。



6 神楽舞(古町通5番町:i-MEDIA実習棟前)

16:45～17:00

伝統芸能の神楽舞。五穀豊穡の神、大黒様が打ち出の小槌を振って清められたお菓子は神菓(しんか)になります。



7 明和神菓まき(古町通5番町)

17:00～17:15

餅まきのお餅をお菓子に見立て、それを参拝者へ撒き振舞うことで、無病息災や家内安全を願う「幸せの御裾分け」を意味しています。当時冷害で御米がとれず町民たちが苦労していたことちなみ、「食への感謝」も込めて今年は撒かず手渡しにて神菓まきを行います。



8 明和義人行列(古町通5番町⇒口之神社)

17:40～18:30(雨天時:古町通5番町のみ)

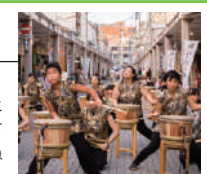
町民を救おうと立ち上がり、活躍した義人の方たちの誇るべき歴史をいつまでも忘れないために。そして後世に伝えるために。当時の江戸時代に見立てて町を練り歩き、町内を盛り上げていこうという想いで行われています。



9 樽きぬた(古町通5番町)

18:50～19:00

その昔、漁師町であった新潟では、嵐に遭遇した船乗り達が竜神に助けを求め、祈りながら船底を叩き続けたことが、祭りに取り入れられて「樽きぬた」に変わっていったと言われています。永島流一門によるきぬたの演奏をお楽しみください。



10 あま蟹の手振り(古町通5番町)

19:00～19:30

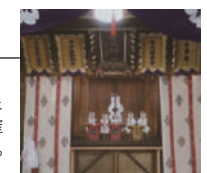
「蟹の手振り」とは、初代新潟町奉行の川村修就が当時の新潟の代表的な風景を描かせた風俗絵巻物で、当時の人々が樽きぬたの演奏にあわせて自由に踊りを楽しんでいる様子が描かれています。現代に蘇った「蟹の手振り」は古町商店街が自由に踊る人々に賑わいます。



11 御霊返し(古町通5番町⇒口之神社)

19:30～19:45

義人の魂を見送る儀式となっています。もともと神を迎え、願い事をするといった行為自体は太古からの人類の営みでした。特に、十分な食べ物を確保すること・病氣にかからないことが二大祈願でした。町民を救おうと立ち上がり活躍した彼らを見送り、今後の町の安泰と弥栄を祈願します。



※雨天時はプログラムに変更の可能性がありますのでホームページをご確認ください。